

屋外排水設備の施工

1. 排水管の施工

1) 山留め

関係法規を遵守するとともに根切り箇所の土質、深さ（1.5mを超える）および作業現場の状況に応じて山留めを設置

2) 根切り

- a. 根切りは、根切り深さおよび根切り幅は、
 - (1) 根切りは、遣り方を計
 - (2) 根切り幅は、管径および敷地内、私道で 50cm 以上とする。
- b. 根切り底面は掘り過ぎない。
- c. 湧水や降雨による根切りは、湧き出しを防止するようにする。

適した方法で行う。

不陸のないよう直線状に行う。

のとし、その最小幅は敷地内で 30cm 以

に合わせて、人力で丁寧に仕上げる。

で適切に処理し、根切り作業に支障のない

3) 基礎

- a. 根切り基面（床付）は、
- b. 地盤が軟弱な場合は、状

等で十分に突き固める。

土措置としてセメント処理を行う。

4) 管の布設

- a. 排水管は受け口を上流に
- b. 布設順序は、原則として
- c. 管の接合は、水密性を保つため、
 - (1) 接着接合（TS 接合）
テーパサイズになった接着剤を塗布した後、速やかにこの方法は、接着剤に

て直線的に芯出しを行う。

適した工法により行う。

をきれいにぬぐい、接着剤を薄く均等に塗布する。

を利用した接合方法。

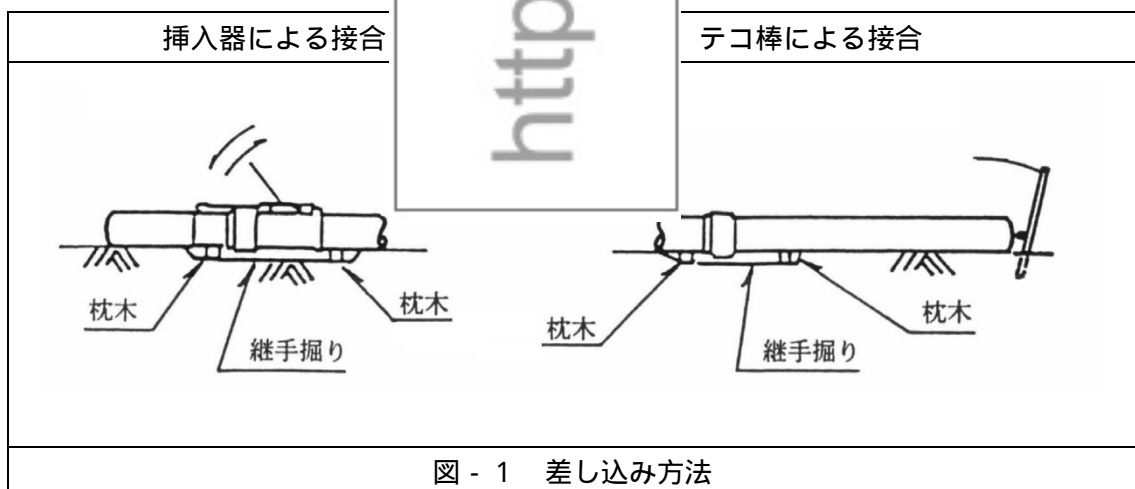
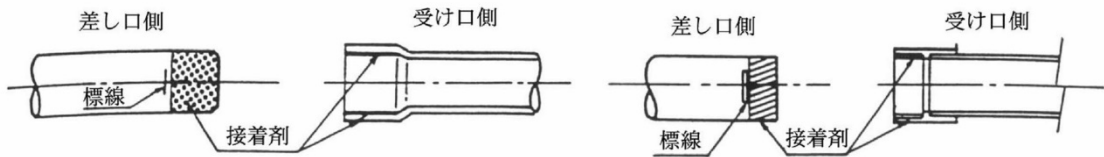


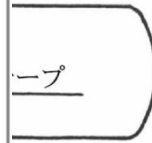
図 - 1 差し込み方法



図

差し込みは、てこ棒
 接着剤の使用にあた
 粘りすぎて白濁して
 きないため使用しな
 管の切断は、管体に帯
 後、ジグソーまたは

う。
 剤特有の刺激臭があるものを使用する。
 ものは接着剤として所定の効果を期待で
 軸に対して直角に管全周に標線を入れた
 る。

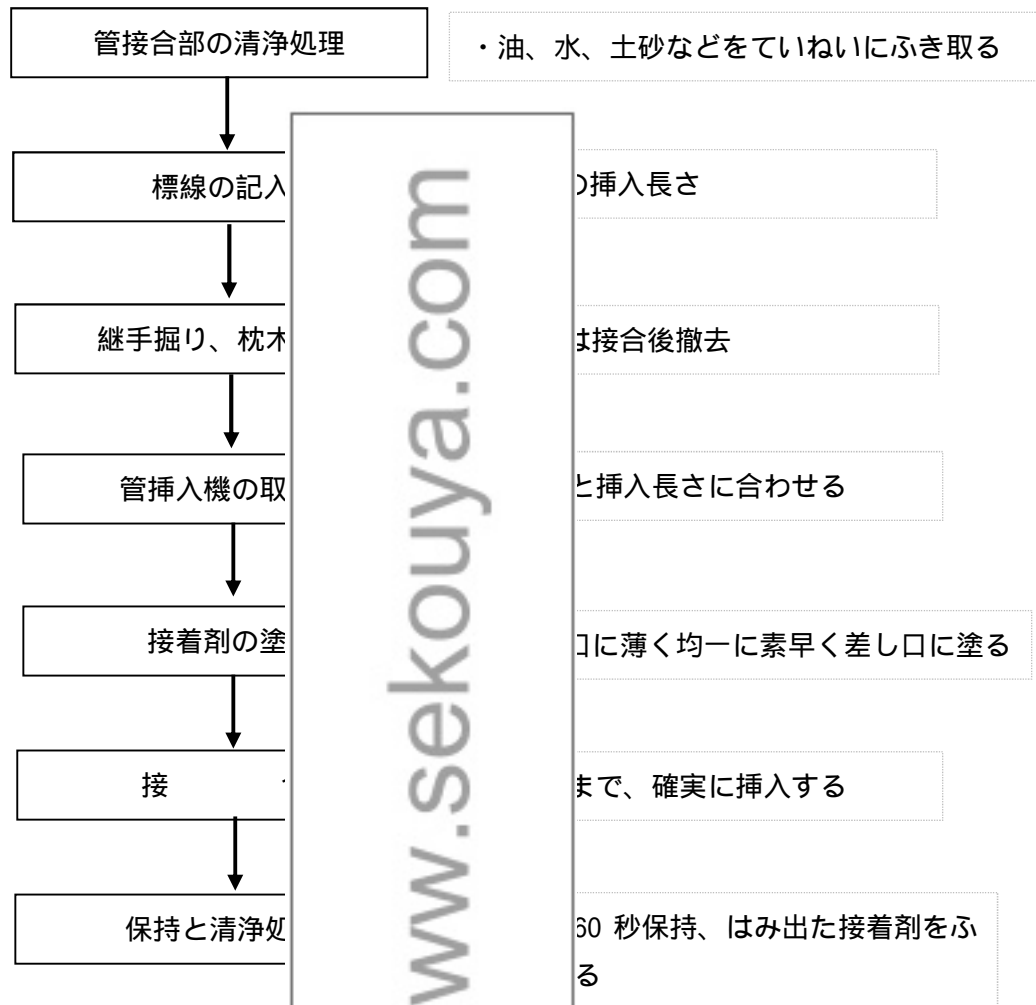


記入 (切断標線)

記入

<https://www.sekouya.com>

(2) 接着接合の手順



(3) 接着接合の留意点

接合するときに、
塗布した接着剤に
管挿入機は接着剤
する。
挿入後は、枕木を
切り管を使用する

使用しない。
枕木を使用する。
セットし、接着剤塗布後に素早く挿入
りめ戻す。
さに標線を記入し、面取りをする。

(4) ゴム輪接合および圧縮ジョイント接合

受け口および差し口をきれいにぬぐい、ゴム輪が正しく所定の位置にセットされていることを確認して、指定された滑材をゴム輪および差し口に均一に塗布し、原則として挿入機により、受け口肩まで挿入する。

(5) ゴム輪接合および圧縮ジョイント接合の手順



(6) ゴム輪接合および圧縮ジョイント接合するときには、八面管に滑剤を塗布し、土砂を撒き、管挿入機は滑剤を塗布し、管挿入後は、枕木を撤去し、根切り管を使用する場合は、根切り管を使用する。

点検する。根切り管を使用する場合は、滑剤塗布後に素早く挿入する。根切り管を使用する場合は、根切り管を使用する。根切り管を使用する場合は、根切り管を使用する。

d. 工事を一時中断する場合は、布設中の官口防護、根切り部分の安全管理等に十分な処置をする。

5) 埋戻し

埋戻しは、管の移動、損傷等を起こさないよう注意し、入念に突き固めながら行う。

- a. 管の布設後、接合部の状態を確認する。
 - b. まずおよび掃除口等に、キャップをし、埋戻し土が管内に侵入するのを防止する。
 - c. 布設管の損傷と不等沈下の防止のため、埋戻し土には管を傷める石やコンクリートガラ等の固形物が混入して
 - d. 管布設時に用いた仮固定
 - e. スコップで傷つけないよ
- よく突き固めながら静か

6) 管の防護

- a. 管の露出はできるだけ避傷のおそれかおる場合はびに落水箇所では、圧力る振動・変位を防止する
- b. 車両等の通行のある箇所を講じる。
- c. 建築物の壁などを貫通す防止措置を講じる。
- d. 建築物を損傷しまたはそ近の配管は根の侵入防止

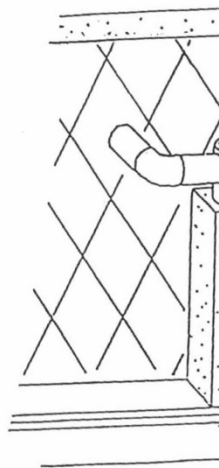
る。
平に保つよう十分に注意して、突き棒で

配管とする場合は、露出部分の凍結、損
流れの方向および流速の変わるところ並
こ、排水管内に負圧が生じる。これによ
て堅固に固定する。

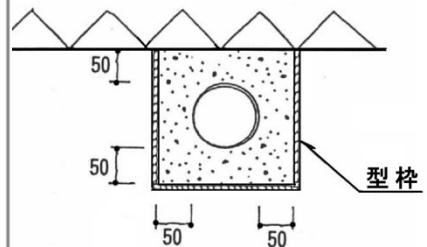
圧管またはさや管等を用いて適切な措置

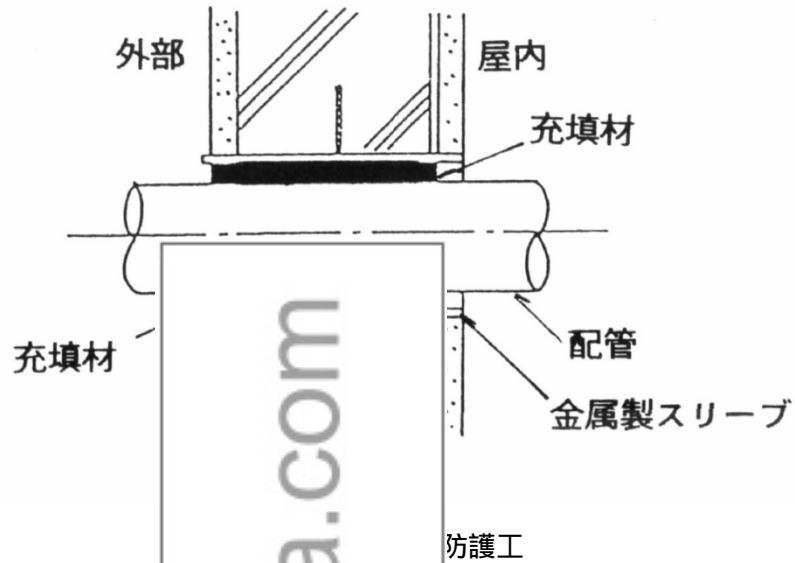
こ配管スリーブを設けるなど、管の損傷

施工は行わない。また、敷地内の樹木付



<https://www.sekouya.com>





7) まずおよび取り付け管

- a. 取り付け管は、流水を阻
断だが、本管の管径が大
- b. 本管への取り付け位置は
- c. 接合部の材料は、本管が
ル管にはそれぞれのソケ
- d. 取り付け管の接合部は、
- e. 汚水ますの底塊はインバ
ウトに設置する。また、本
据え付ける。

への取り付け部は流水に対して 60° が原
義する。
向になるよう取り付け。
を用い、コンクリート管および塩化ビニ
ル管なので入念な施工をする。
るので、上流側と下流側を間違えないよ
うにインバウトの向きは、本管に対して直角に

2. まずの施工

1) まず

- a. まずの設置箇所の根切り
排水管に準ずる。
- b. 基礎
砂基礎等とし、十分突き
状況に応じてセメント処理を行う。

行うため必要な余裕幅をとる。その他は
度)に仕上げる。軟弱な地盤では、

c. まず設置

硬質塩化ビニルまずはインバウトに勾配がついているので、まず天端を水平測定器(水
平器)で水平を確認する。
まずの立ち上がり部および管口部は、塩ビ用接着剤を塗布し、塩ビ管を規定の挿入長さ
まで素早く確実に挿入接合する。

d. 埋戻し

- (1) ますの設置後、接合部の硬化をまって良質土等で（ごみ、木屑、コンクリート塊等を取り除く。）ますの両側を均等に突き固めながら埋戻す。
- (2) 埋戻しは、原則として排水管の一区間ごとに行い、ますおよび管の移動のないように注意して行う。
- (3) 特に、トラップ付きイ

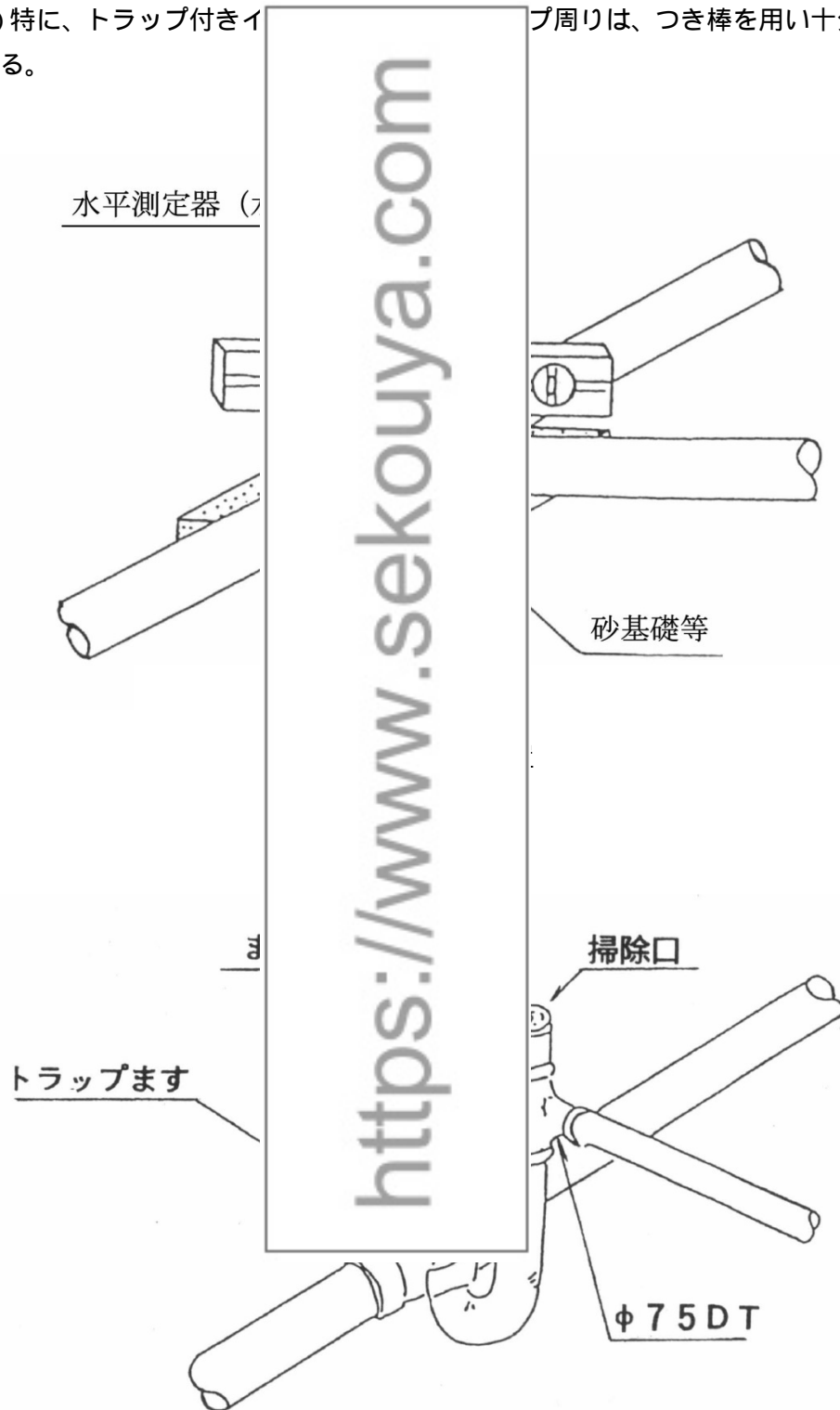


図 - 7 ますの取り付け

e . ますの保護

- ・ 車両等の荷重を受けるおそれのある箇所では、必要に応じて鋳鉄蓋（保護蓋）を使用する。
- ・ 保護蓋は二重蓋構造とし直接荷重で沈下しない構造とする。
- ・ ますの天端は、周辺地盤に合わせ凹凸のないようにすること。

